

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H14年度新規)	—	H14	H24	13.6	10.38	改修延長 L=1,080m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替等
第1回審議 (H23年度)	事業採択後 10年経過	H14	H34	13.6	10.55	【当初評価からの変更概要】 人家近接による施工上の制約や橋梁等の構造物が多いことに加えて用地交渉に時間を要していることによる工期延長
第2回審議 (H29年度)	整備計画策定	H14	H34	13.6	10.55	【前回評価からの変更概要】 整備計画策定に係る審議
第3回審議 (R2年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H14	R9	15.2	9.47	【前回評価からの変更概要】 仮設工施工方法の見直しに伴う事業費増 仮設工施工方法の見直し及び用地交渉に時間を要していることによる工期延長
第4回審議 (R7年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H14	R12	21.2	8.08	【前回評価からの変更概要】 仮設工法の見直し及び労務費・資材単価増による事業費増 仮設工法の見直し及び用地制約による資機材運搬路の制限による工期延長

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

- ・後の川の総合流域防災事業は、医王寺橋から野呂河橋上流に至る区間において河道拡幅、河床掘削および護岸の整備を行い、洪水に対して安全な河道を確保し河川の氾濫を防止することを目的としている。

◆事業概要

工事延長	L=1,080m
整備内容	河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替等

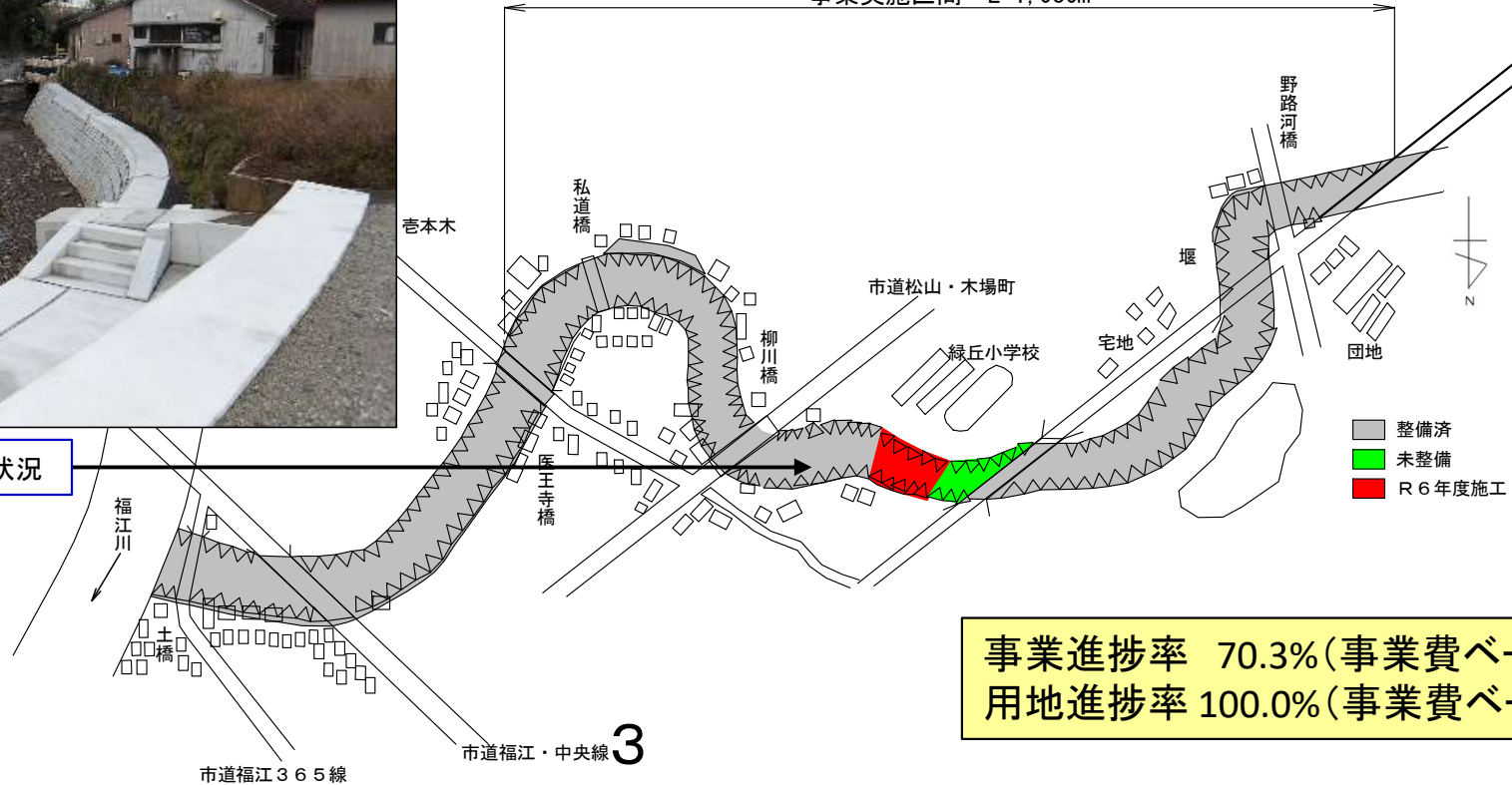
◆事業経過

平成14年度	事業化	平成20年度	柳川橋架替
平成14年度	用地買収着手	平成27年度	野呂河橋架替
平成16年度	護岸整備着手		

事業実施区間 L=1,080m



No.820付近の状況

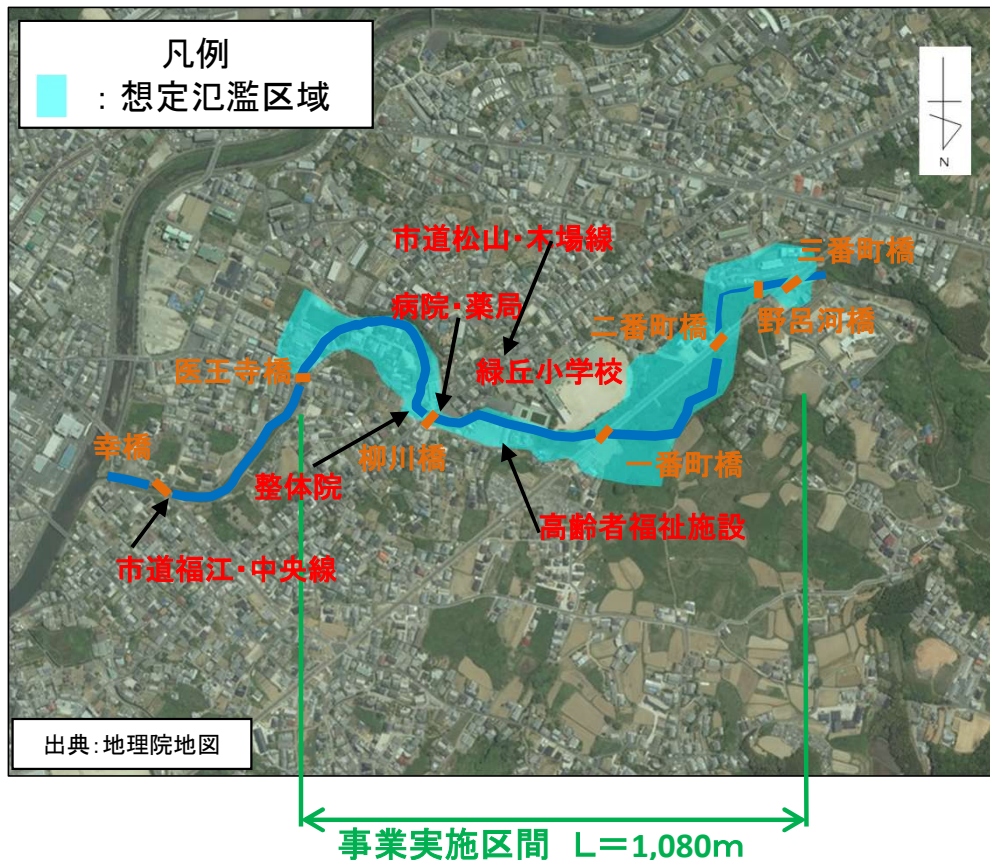


事業進捗率 70.3%(事業費ベース)
用地進捗率 100.0%(事業費ベース)

3. 事業の効果・必要性

<河川の氾濫防止>

想定氾濫区域内には、病院や薬局、整体院、高齢者福祉施設や住宅および市道が存在する。



<過去の被災状況>

後の川周辺は、過去に何度も家屋および農地が浸水被害に見舞われており、河川改修による事業効果が大いに期待される。



昭和42年7月9日豪雨による被害状況



昭和62年7月30日豪雨による被害状況



令和6年7月14日豪雨による被害状況



令和6年7月14日豪雨による被害状況

年 月 日	日雨量(mm/日)	最大時間雨量(mm/h)	備 考
令和6年7月14日	277.5	85.5	線状降水帯発生

4. 事業の進捗状況

・現在、緑丘小学校付近を除く上流および下流の護岸整備については、完了している。

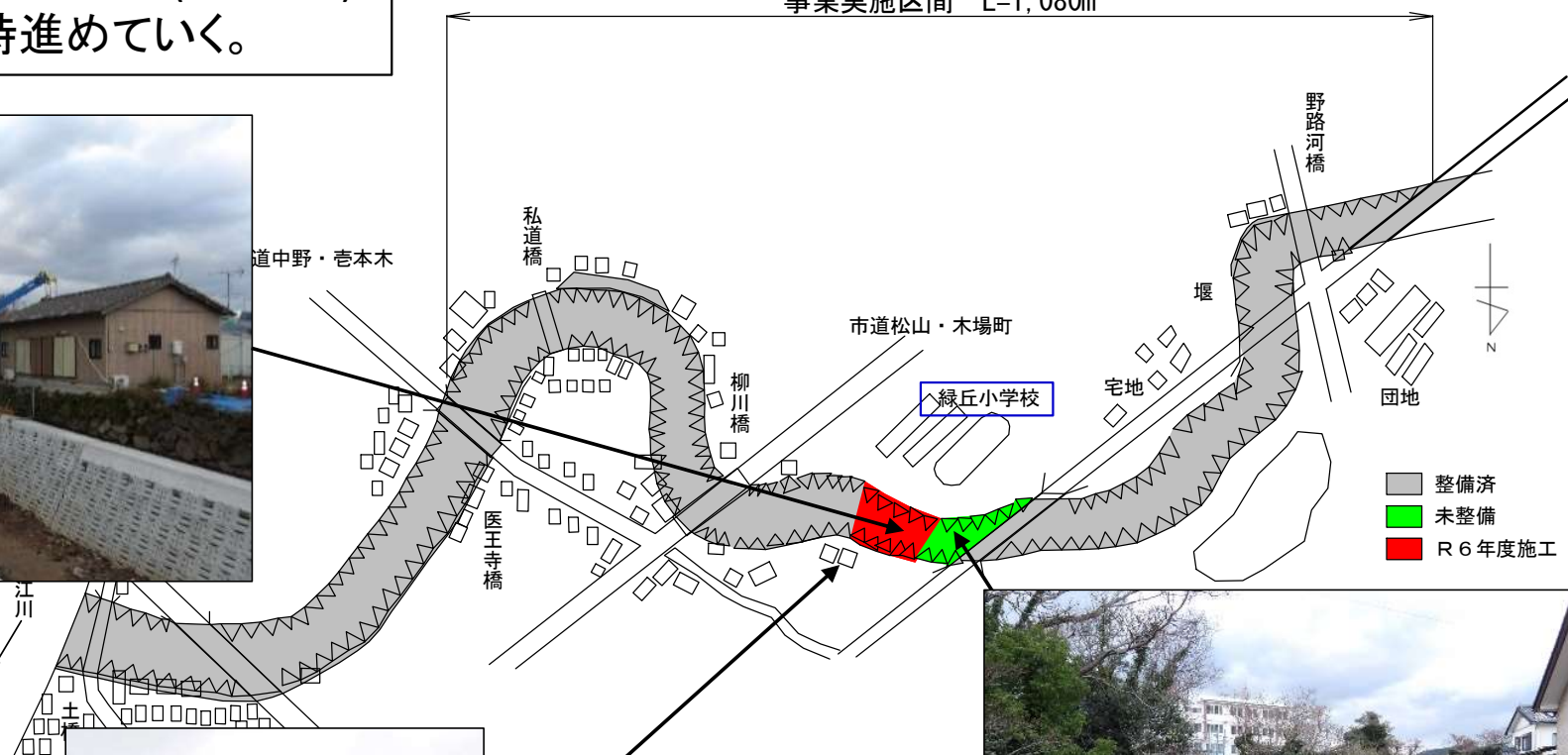
・今後は、緑丘小学校付近(約180m)の護岸整備を随時進めていく。

全 体	R6年度末まで	進捗率	R7年度以降残
21.20億円	14.9億円	70.3%	6.3億円

事業実施区間 L=1,080m



No.920付近 施工状況



高齢者福祉施設

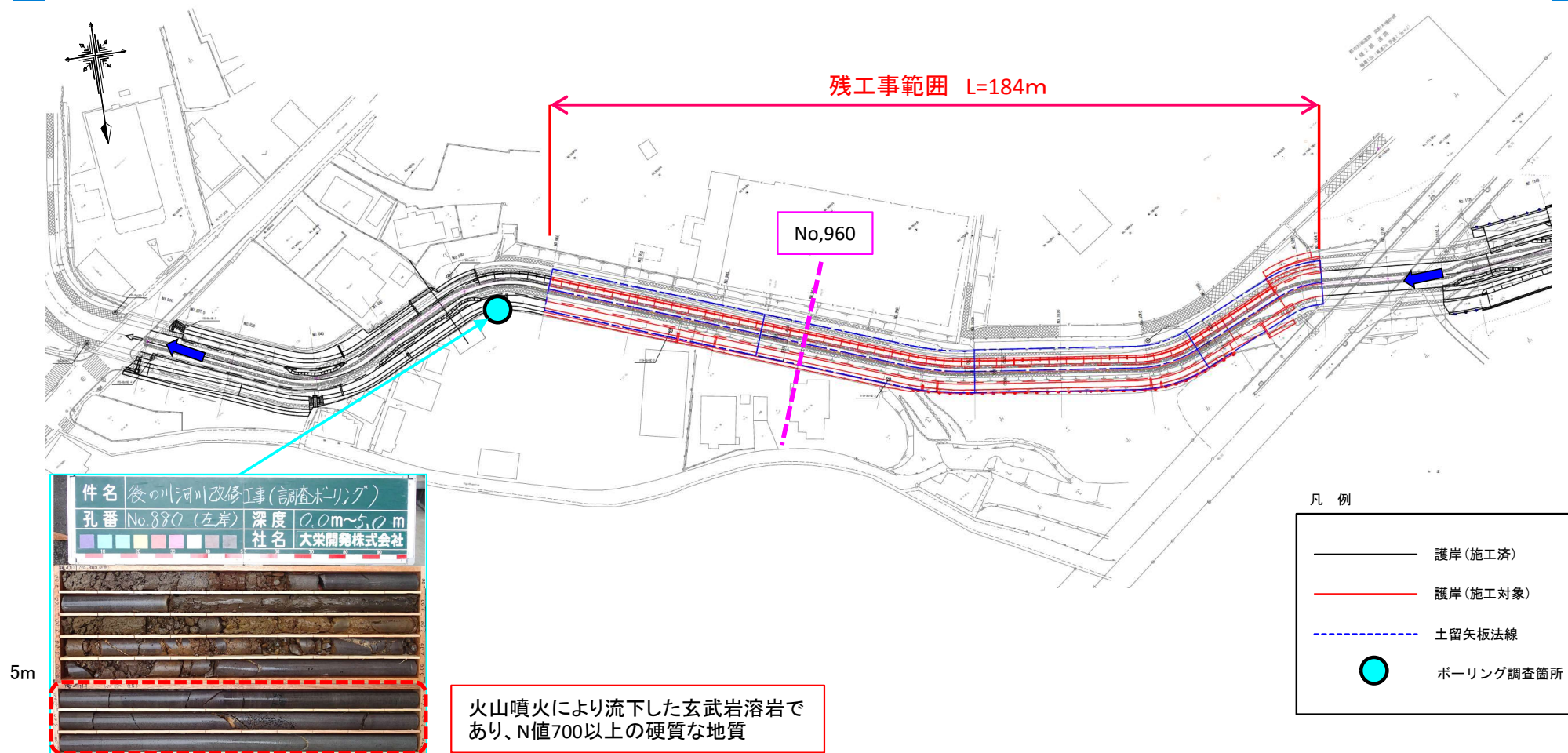
高齢者福祉施設

・中央線



No.960付近 未整備箇所

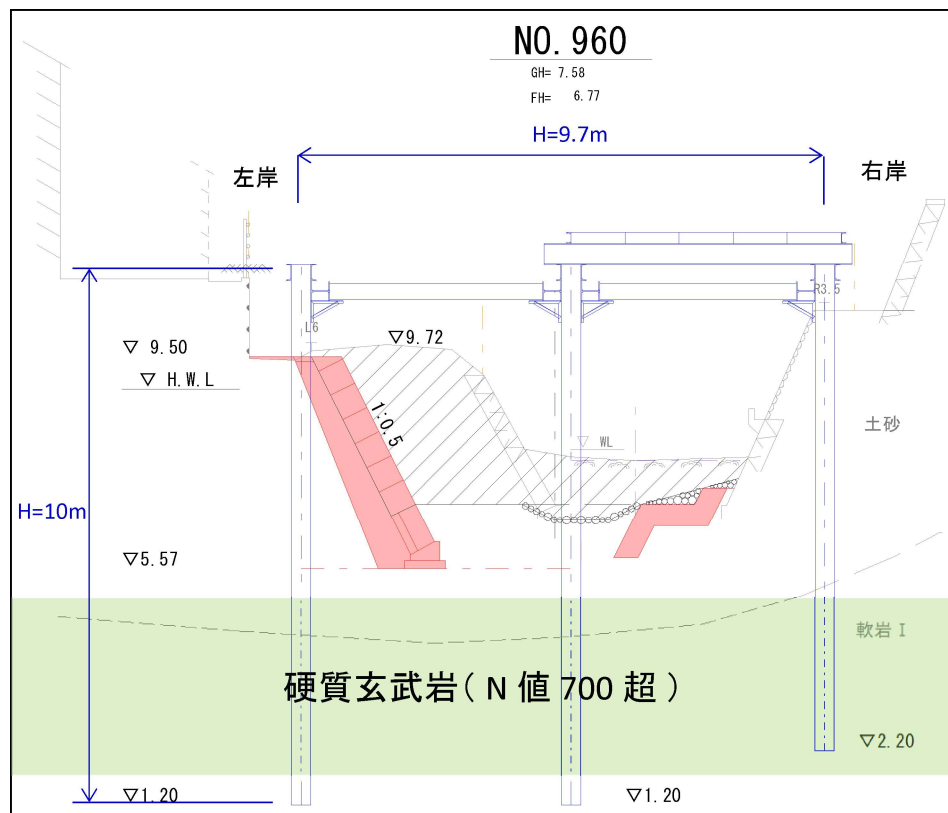
4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)



事業費増の内容	増 額	主な増額理由
①仮設工法の見直し	4.0億円	矢板の打設工法を変更したことによる工事費の増加
②その他	2.0億円	資材費及び労務単価の上昇による増加
合計	6.0億円	

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

【①仮設工法の見直し】



【当初】

[硬質地盤クリア工法]

- ・従来型パイルオーガにより、仮設矢板を打設する。
- ※N値(地盤の硬さ)600以上の超硬質地盤には適さない。

R5施工時に、想定より浅い位置にN値700を超える超硬質岩盤が確認され、当初工法での施工が困難となった。

【変更】

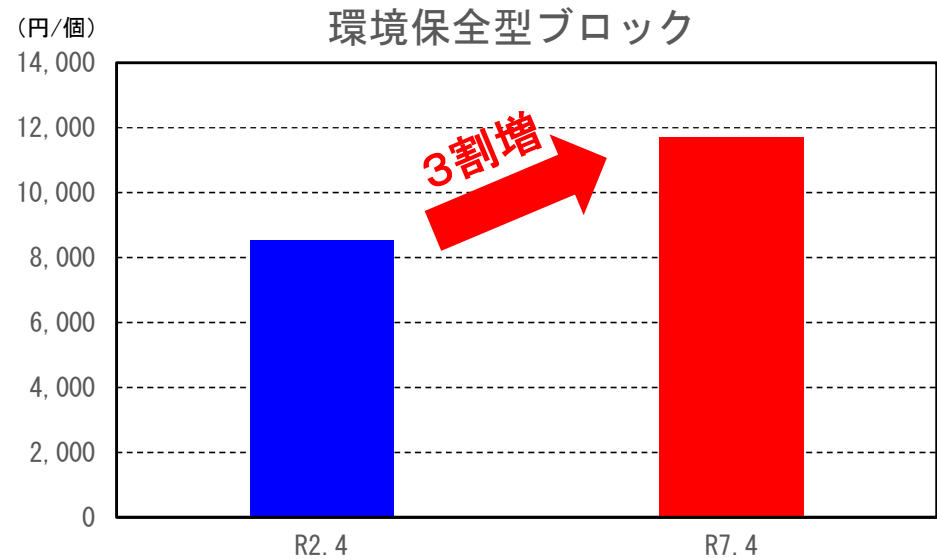
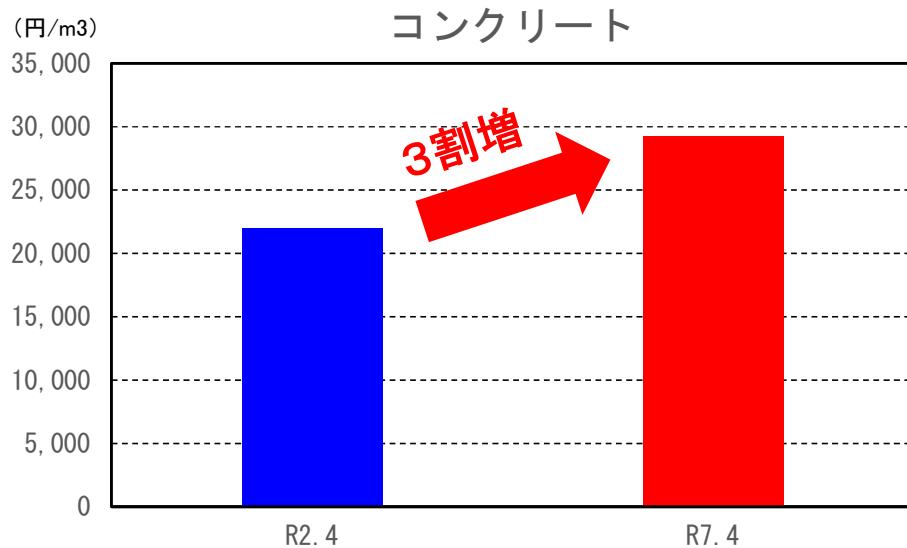
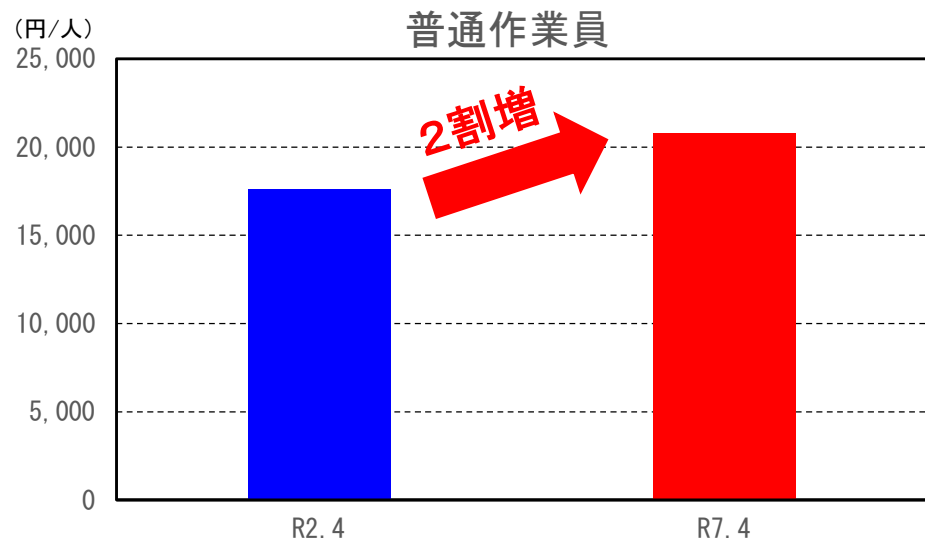
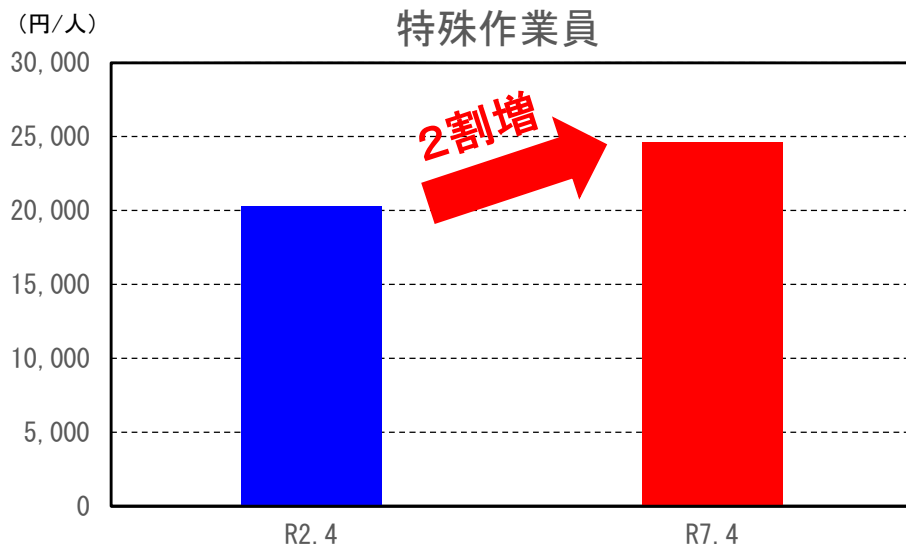
[硬質地盤クリア工法(フライホール式パイルオーガ)]

- ・新型パイルオーガにより、仮設矢板を打設する。
- ※N値(地盤の硬さ)600以上の超硬質地盤に対しても、適している。

事業費増の内容	増 額	主な増額理由
①仮設工法の見直し	4.0億円	硬質な地盤が確認されたことから、仮設矢板の打設工法が変更となったため。

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

事業費増の内容	増 額	主な増額理由
②その他	2.0億円	労務単価および資材単価の上昇により増額する。



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】R9(前回)→R12(今回)

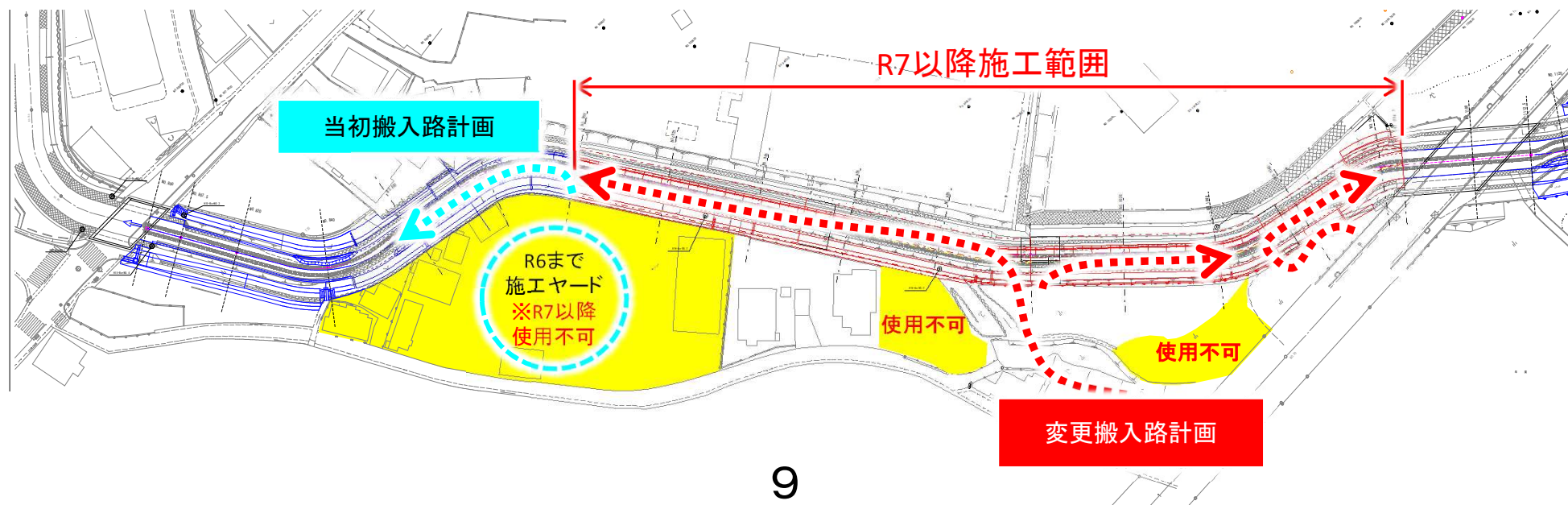
- ・ 超硬質な地盤への仮設矢板打設や、用地制約による資機材運搬路の制限により、工期を延長する。

前 回

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
用地取得									
護岸工									

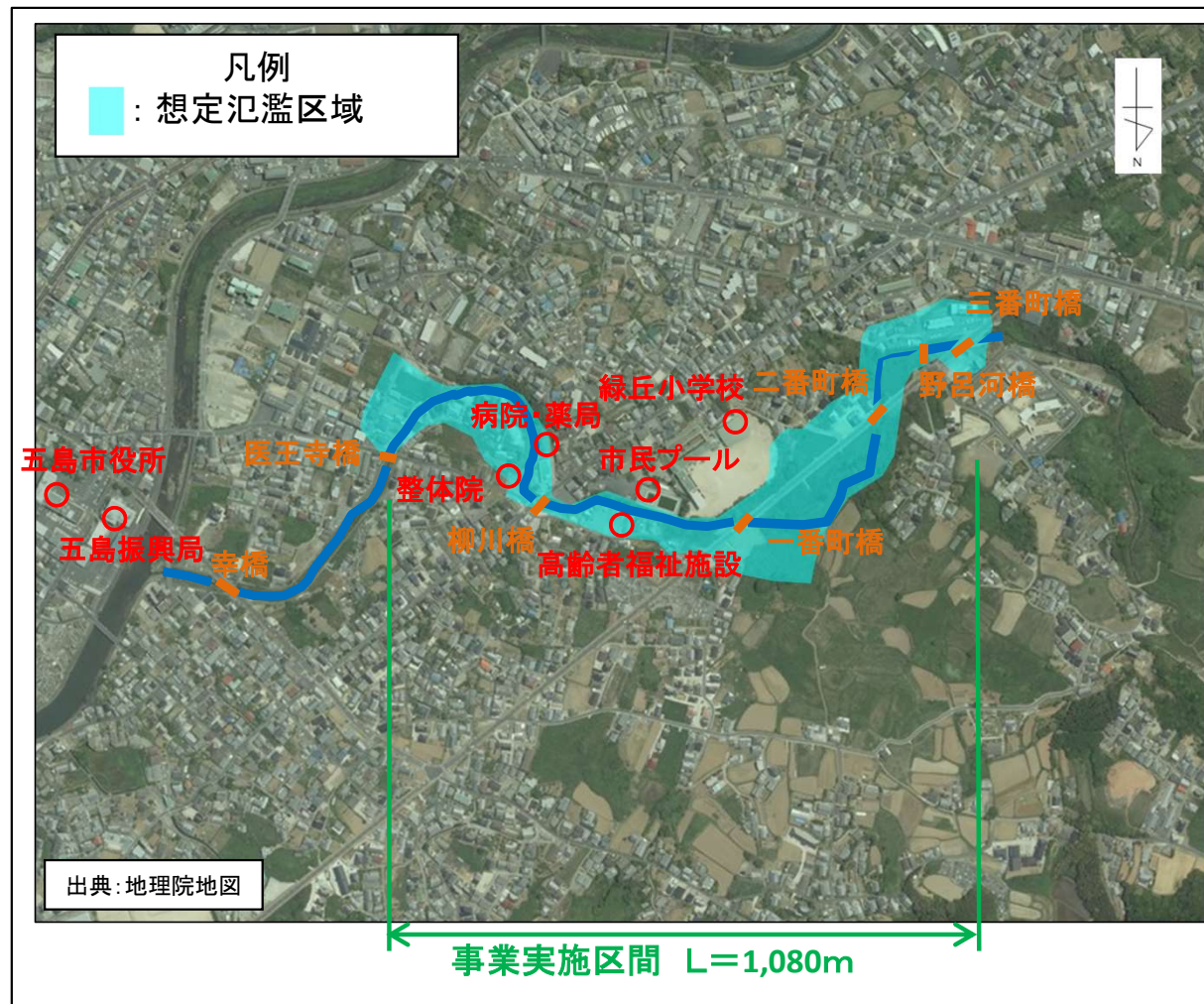
今 回

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
用地取得												
護岸工						施工計画 再検討						



5. 社会経済情勢等の変化

五島市の中心部であり、小学校、医療、福祉施設等が集約されている地域であるが、前回評価時と比較して社会情勢等の大きな変化は認められない。



6. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和2年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	43.13＝ 221.0億円／5.1億円	3.84＝ 27.45億円／7.15億円
全事業	9.47＝ 221.26億円／23.35億円	8.08＝ 310.66億円／38.44億円

〔費用〕

- ・河川整備に要する事業費(工事費、用地費)、河川維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・家屋、家庭用品、事業所及び従業員等の直接被害、営業停止、応急対策費等の間接被害、公共土木施設被害に対する便益

〔プラス要因〕

- ・治水経済マニュアルの改定(被害率の変更)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増加
- ・事業期間の延長

7. 対応方針(原案)

- ◆ 後の川流域の洪水氾濫被害に対して、人的被害、一般資産、公共施設等を守るため、安全な河道を確保し、河川氾濫を防止するための河川改修事業である。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約70.3%[14.90億円/ 21.20億](令和6年度末)であり、用地進捗率は100.0%となっている。
- ◆ 地元「五島市」から、早期完成が望まれている。
- ◆ 事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減は見込めず、また、代替案の可能性はない。
- ◆ 事業費の増額および工事期間を延長するが、費用対効果も十分に見込まれる。

